

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370600506
法人名	医療法人 悠紀会
事業所名	グループホーム ゆうきの家
訪問調査日	平成 21 年 2 月 6 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 24 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 調査報告概要表

作成日平成 21 年 2 月 6 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4370600508
法人名	医療法人 悠紀会
事業所名	グループホーム ゆうきの家
所在地	熊本県玉名市上小田1063 (電話)0968-74-1131
評価機関名	特定非営利活動法人 ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6丁目41-5千代田レジデンス106
訪問調査日	平成21年2月6日

## 【情報提供票より】(平成21年2月7日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成13年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	

### (2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	260 円	昼食	260 円
	夕食	260 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 780円			

### (4)利用者の概要(2月7日現在)

利用者人数	名	男性	名	女性	名	
要介護1	6	名	要介護2	2	名	
要介護3	7	名	要介護4	2	名	
要介護5	1	名	要支援2		名	
年齢	平均	87.5 歳	最低	77 歳	最高	99 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	悠紀会病院、工藤歯科医院、反後歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

風光明媚な菊池川沿い、広大な敷地の母体法人悠紀会病院に隣接し、木造平屋で2棟の「ゆうきの家」がある。全館杉の無垢材を使用し、夏は素足の心地よさ、冬は暖かいぬくもりが入所者を包む。入所者にとって使いやすい高さのキッチン、人目を気にせず使える洗面台など、設備にも配慮がある。職員は「その人の今の思い」を原点とし、共に生活する視点を大切に支えている。「今、何をしたいのか」「困っていることは何か」、利用者の思いにアンテナを立て、柔軟に、機敏に対応している。職員間のコミュニケーションも良く、質の向上に向けた熱心な取り組みと、チームワークの良さが感じられる。外部評価時の「家族アンケート」回答は、殆どが「安心」「感謝」「満足」の声であり、家族の信頼を得ていることが分かる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、ホームのケア方針やターミナルケアへの対応等について家族の理解を得、意見交換することの必要性が指摘されていた。家族会開催時・入居時・面会時・ケアプラン見直し時・家族参加のサービス担当者会議等、機会あるごとにケア方針を伝える努力で改善を図っている。ターミナルケアに関しては今後方針をより明確にし、職員研修も行う予定。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、勉強会で検討するなど、ケアの振り返り・学習の機会と捉えている。訪問調査日は全職員が時間を工夫して評価員と接する機会を作るなど、施設長・管理者・職員が質の向上を目指し努力する姿勢とチームスピリットが感じられた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	老人会・区長・民生委員・高齢者相談員・婦人会・大学教授・地域包括支援センター等から参加を得、2ヶ月に1回開催。ホーム側から入所者の生活の様子・健康状態・家族面会や外出状況等、細やかな報告を行ない、委員からは地域の声・福祉ニーズ・行事情報等を得ている。委員会での意見交換がきっかけで、「ゆうきの家だより 地域版」を発行することになり、委員会の積極的な支援との協働が見られる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎年、外部評価終了後、家族会を開き、報告会と食事をやっている。家族面会時には、出来るだけ職員から声かけし、親近感を持ち、話しやすく、意見が言いやすい雰囲気作りで工夫し、家族からの要望には「ありがとうございます」と感謝の意を示し、運営への反映に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	「ゆうきの家だより・地域版」を発行し、ホームの行事案内や認知症に関する情報・ホーム内の暮らしの様子などを発信し、開かれた親しみやすいホームとして住民との交流に努めている。2月には母体法人の協力を得、地域住民のために認知症サポーター養成講座を開催。中学生の職場体験受入や、入所者と職員の手芸品、手作り味噌・石鹸などを出品するバザーは恒例になり、地域の人々にも喜ばれている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家族の一員として、共に生活する視点にたって過ごします。残存能力を引き出し、その人らしく暮らせるようお手伝いします。本人の意思を尊重し、当たり前の暮らし作りのお手伝いをします。家族や地域との結びつきを大切に、開かれたホーム作りにつとめます。」と、分かりやすい表現で、地域密着型サービスの理念を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや毎月の勉強会で、申し送りノートや事例をもとに、職員の利用者への対応は「本人の意思を十分汲み取った支援が出来ていたか」振り返っている。本人の意思・気持ちの尊重を最優先にして理念の実践に取り組んでいる様子が見られた。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進委員を通して、地域行事や福祉ニーズなどについて情報等を得ており、「ゆうきの家だより」地域版を発行し、ホームの行事案内や、認知症に関する情報(Q&A)・ホーム内暮らしなどを発信して、開かれた親しみやすいホームとして住民との交流に努めている。2月には法人の協力を得て、地域住民のために認知症サポーター養成講座も開催。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、勉強会でケアの振り返りを行ない、結果を管理者が取りまとめている。自己評価をきっかけに、「成年後見制度」について詳しく勉強した職員が、運営推進委員会で説明するなど、積極的な姿勢が見られた。また、訪問時は全職員が勤務時間を工夫して評価員と接する機会を作るなど、質の向上に関する施設長・管理者・職員の強い意志とチームスピリットが感じられた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は老人会・区長・民生委員・高齢者相談員・婦人会・大学教授・地域包括支援センター等の参加を得、2ヶ月ごとに開催。ホームから入所者の生活の様子・健康状態・家族面会や外出状況など、細やかな報告を行い、委員からは地域の声・福祉ニーズを得ている。「ゆうきの家地域版」は運営推進委員会での意見交換がきっかけで発行され、回覧板と一緒に地域住民に配布され、役立つ情報の発信源として貢献している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センター職員が運営推進会議のメンバーであり、会議終了後、報告や相談を行っている。特に、事故の報告は速やかに行なうなど、問題解決に積極的に取り組む姿勢が伺われた。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書と共に、入居者の担当者が暮らしぶりを伝える便りを添え発送している。家族面会時に健康状態や日頃の様子を職員が口頭で報告したり、日常生活を撮った写真を渡している。状態急変時の家族への連絡、快復時報告のタイミングが悪く、家族に心配をかけるケースがあった。家族の声から、報告内容の大切さ・家族への配慮等を振り返り、改善へのきっかけとしている姿勢が見られた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、外部評価終了後、家族会を開いて報告会と食事会を行い、開かれた運営に努めている。家族面会時には出来るだけ職員から声かけし、親近感を持ち、話しやすく、意見が出しやすい雰囲気作りに工夫している。家族からの要望や意見には「ありがとうございます」と感謝の意を示すことで、信頼関係の構築に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体法人のサポートもあり、職員の異動は必要最小限に抑えられている。また、職員は出来るだけ地元住民を採用し、利用者や家族との話題の共有に工夫している。管理職は職員が相談しやすい雰囲気づくりに努力しており、職員のモチベーションアップや職場定着率の高さに効を奏しているものと思われる。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修・外部研修等、職員の希望やレベルを考慮し研修への参加を促し育成している。困ったことなど上司や先輩に相談できる現場での育成にも取り組んでいる。研修は仕事として捉えられ、費用は事業所が負担するなど、職員育成に関して、運営者・母体法人の支援が見られた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会に参加し、2ヶ月に1度の交流が行われている。熊本県認知症介護実践者研修の実習生受入れ事業所でもあり、同業者との情報交換も行なえる環境にある。「NHKのど自慢大会」に出たかった入所者の希望を叶えようと、GH連絡会主催ののど自慢大会を実施するなど、入所者の楽しみや、サービスの質の向上のため、同業者ネットワークを活かした活動が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所や、馴染めるまで家族も宿泊したり、入浴と一緒にするなど、その人にあった方法で、馴染みながらのサービス利用を支援している。必要時は夜勤を二人体制にしたり、柔軟に対応している。家族の面会も多く、リビングの一角で昼食のテーブルを囲む母子の様子は、まるで自宅での食事風景のように見られた。利用者・家族・ホーム間に壁がなく、一体感が感じられた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	大工仕事や職人レベルの人、料理自慢の人、庭仕事が好きで、整理整頓や管理なら任せという人等、多才な入所者の能力発揮の機会を大切に、お互いに感謝しながらの暮らしぶりが観察された。共に生活し、支えあい、喜び合う仲の良い家族のような生活の様子が見られた。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握を常にケアの最優先としている。不安なこと、やりたいこと、困っていること等、ゆっくり観察し、把握に努めている。お米を宅急便で子供に送りたい人、以前のように家族と一緒にスーパーで買い物したい人、それぞれの思いに寄り添い丁寧に支援する優しい対応が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時に、ホーム独自の「ケアプラン立ち上げシート」を活用し、入所者が抱えている問題や、意欲を阻害しているもの、解決すべきこと等を記録し、プラン作成の参考にしていく。また、全職員参加のミーティング時に、気づきや観察結果を検討し、ケアプランに反映している。サービス担当者会議には本人や家族の参加も要請し、希望を取り入れて計画作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画作成している	6ヶ月ごと、あるいは身体や行動に変化が生じた時に見直しを行ない、現状に即した計画作成に努め、本人や家族に説明し、同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「今どうしたいのか」職員は常に利用者の思いにアンテナを立て、面会・外出は時間を決めず、自由な暮らしを支援している。床屋に行きたい、阿蘇までドライブ、歯医者に行きたい、顔剃りに行きたい、家族に会いに行きたい、結婚式に出席したい等々、入所者のそれぞれの思いに柔軟に、機敏に対応する職員の姿勢に入所者への思いやりが感じられた。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・皮膚科・眼科・歯科・心療内科等の継続受診を希望する際は、家族と協力し支援しているが、入居時に母体医療法人で健康診断を行い、担当医を決め緊急対応にも万全を期している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「入居者病状悪化時の対応指針」について説明を行ない同意が得られている。重度化や終末期に向けた方針の作成や職員間での方針の共有と対応への研修はこれからとなっている。	○	重度化や終末期に向けた方針の作成と職員間の共有、対応への研修を行なうことで、職員の不安も軽減され、より質の高いケアが提供できるものと思われる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ介助・食事介助・料理支援時には、言葉を選び、選択肢のある声かけでプライドへの配慮を行なっている。居室にカギをかけたい入所者には、プライバシーの確保という視点で希望を取り入れ、本人の思いを大切にしている。個人情報ファイルは事務所に置き、取扱への配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりごとのない、自由な生活環境になっている。リビングでは、遅い朝食をとる人、テレビを見る人、テラスの側で日向ぼっこをする人、昼食の準備を手伝う人、床のゴミを丁寧に掃除する人など様々で、懐メロの流れるゆっくりとしたリビングにはそれぞれの穏やかで安心した空間と時間が流れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、希望に沿い、冷蔵庫内の食材・頂き物の野菜も活用し、食べたいものの希望を聴き、職員と入所者が一緒に買い物に出かけている。また、料理自慢が腕をふるいやすいように整備された低い流し台で職員と一緒に調理をするなど、楽しみながらの食事支援が行われている。外食や店屋物で楽しむ工夫も取り入れられている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は時間や曜日を決めず、いつでも入れるように支援している。「このテレビ見てから入る」、「一人では寂しいから一緒に入ろう」等の声に、テレビが終わるまで待ったり、一緒に入浴する職員の姿勢には、仕事を越えた入所者への深い思いやりが感じられた。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手提げ袋や毛糸の帽子などの手芸品、手作り味噌、プリン石鹸など、入所者と職員と一緒に作り、バザーで販売するなど、張り合いや喜びを支える支援がある。キミマロのCDや懐メロをきいたり、市民会館に歌謡ショーを見にいたり、美術館や植木市に出かけたり、手作り弁当をもって散歩にでかけるなど、楽しみごとや、気晴らしの支援へ多様に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「床屋に行きたい」「顔剃りに行きたい」「玉名駅まで家族を送って行きたい」「奥さんを迎えに行きたい」の声に、職員はそれぞれのユニットの車に対応し、利用者の今の気持ちにすぐ応える努力が続けられている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間はホーム玄関に施錠はなく、出入り自由である。しかし、それぞれの居室にはベランダがあり外出は可能。建物周辺には住宅が少なく、地域住民への見守り依頼は難しく、職員の見配りが強化されている。尚、帰宅願望のある利用者には、気持ちが安定するまで一緒に散歩するなどして見守り、事故防止に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年2回、ホーム主催の避難訓練を行ない、入所者も参加している。また、法人主催の火災訓練には、消火器使用訓練に入居者や職員が参加し、災害に備えている。	○	災害時における認知症入所者の非難誘導に関しては、協力者の理解が求められ、夜間災害を想定した災害時支援体制づくりも必要かと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>現在、制限食等の利用者はいないが、希望や状態によっておかゆやミキサー食の提供も可能な体制が出来ている。水分補給はお茶だけでなくアイスクリームやみかん・汁物などの調整も行なわれている。季節によって食欲が落ちる利用者には、本人の意思を聞きながらドクターにも相談し、栄養バランスの確保に努めている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>明り取りの天窗がある木造平屋作りの建物は、風通しが良く、暖かみがある。広々としたオープンスペースのリビングはテレビを見るコーナー・日向ぼっこをする場所があり、食堂なども見渡せて、利用者はゆっくりした自分の空間を保ちながら、人の気配も感じられる、安心できる環境になっている。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内はベッドと備え付け物入れ以外は利用者と家族の自由となっており、仏壇・家族の写真や使いなれた蠅たたき・整理筆筒等を持ち込み、その人らしい雰囲気がある部屋や、ベッドと椅子だけのシンプルな部屋等、それぞれ自由な部屋となっている。あくまでも、本人本位を大切に、それぞれの居心地よさを尊重した配慮がみられた。</p>		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ゆうきの家
(ユニット名)	ゆうきの家
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名市上小田1180
記入者名 (管理者)	大西友子
記入日	平成20年12月25日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時事業所独自の理念を職員で考えつくりあげている。	○ 本人の意思を尊重し、その人らしく暮らせる様お手伝いしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの中で実践している。	○ 今したい事が今できる様に支援している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議や家族の面会時などに伝えている。	○ 地域の人々に理解していただけるよう、努力していきたい。地域の行事に参加して、伝えていく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方がよく野菜を持って来られている。気軽に立ち寄っていただけるように努めている。	○ 気軽に立ち寄っていただけるようこれからも努力していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事、小学校・保育園の運動会敬老会などにも参加している。運営推進会議にも自ら参加されている。	○ 地元の人々との交流を図っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ゆうきの家だより地域版などにも記載して、切り絵や音楽療法への参加を呼びかけている。	○	声かけはしているが、参加は見られていない。これからもこえかけを続けたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取り組んでいる。	○	評価を活かし、注意されたことへの改善の取り組みをしている。 (歯磨きなど)
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状態や、生活状況などの報告や運営推進会議での意見をサービス向上に活かしている。	○	運営推進会議での意見において、ゆうきの家だより地域版の発行に至った。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議が終わった後や、事故があったり困った時に相談している。	○	職員が市町村のボランティア活動に参加できる機会を作る。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今の所対象者がいない。		今後勉強していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	病棟での全体の勉強会に参加して、改めて当施設でも虐待がない様に注意している。	○	年1～2回虐待防止の勉強会を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>家族の面会時に状態を伝えたりしてお互いに情報を交換している。</p>	○	話し合いをじっくりしている。資料の提示等により理解を得ている。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>日々の生活の中で自由に話せるような環境を整えている。外部評価のアンケートを行っている。</p>	○	定期的に居室を訪問し、1対1の会話にて不満を聞いたりすることもある。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>その都度報告している。口頭だけではなく手紙等でも知らせている。ゆうきの家だより、面会時、TELなど</p>	○	今後も家族との関わりを大切にしながらコミュニケーションを大切にしていきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>家族が自由に意見を言えるような環境を整えている。面会時、支払いに来られた時などに聞く。</p>	○	面会時やTELなどの会話にて苦情や不満があれば聞いたりしている。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>ミーティングや勉強会等でもその都度話し合いの場をつくっている。職員面談が定期的にある。</p>	○	自由に相談できる環境ができています。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>その都度勤務表の調整を行っている。</p>	○	周囲の状況に合わせての勤務調整。
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>利用者に合わせて行っている。</p>	○	利用者の事を最優先に考えて異動を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、習い事、資格等を受ける機会が確保できている。	○	これからも個人個人が何かの研修に行き、当ホームで活かせるように積極的に取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2月に一度の支部会や年に一度ののど自慢大会の活動を通じて情報の交換を行い、サービスの質の向上を図っている。	○	グループホーム支部会において話し合いにより色々な行事への取り組みをしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	リフレッシュ休暇として旅行等にもスムーズに行ける様配慮している。	○	職員間のコミュニケーションも大切にしている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	役割分担を決めて責任を持ち働いている。	○	一人ひとりの性格を把握し見守ってくれている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	出来る限り話を聞き、対応している。生活をする上でしたい事ができる様支援している。入所前の見学でホームの雰囲気を見せもらう。	○	話を聴くようにしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時に伝えたり、話を聞くようにしている。家族との相談はその都度受けている。	○	話をよく聴いて受け止める努力をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険の利用の仕方やケアマネ、病院の相談。	○	外来受診とかも本人の希望により積極的に行っている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を行っている。	○	工夫しているものの最初は馴染めないケースも多々あり、その都度検討している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に料理をしている。 洗濯たたみなど	○	職員との年齢層もあり、孫や子や友達のように接し支えあう関係が出来ていると思う。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の話を聞いたり、利用者の情報を伝えている。	○	誕生会などを共にお祝いしたりして関係を築いている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と食事をしたり、外食に出たりされている。 お祝い事にも参加できている。 会いたいときに会いにいけている。	○	家族の行事(仏事・結婚式など)への参加の協力をしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会いたい方への面会などいつでもできる様心がけている。 行きつけの床屋、顔そりのお店に行けている。	○	会いたいときに会いに行けている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲よし同士の散歩はできている。 両者の良い距離感を持った関わり合いが出来ていると思う。	○	畑仕事に一人で行かれる時はなるべく関わる様にする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている	入院の為に退居された時は洗濯物の支援など継続して行っている。	○	年賀状でのあいさつにより関係を続けている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り希望に添えるような支援を心がけている。例えば子供さんにお米等宅急便を送りたいと希望されるときは母としての役割が果たせるよう援助している	○	利用者の思いを尊重している。それぞれの役割が果たせるように支援していく
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式に記入して、情報を収集している。ご家族に協力を頂き直接記入していただく場合もある	○	センター方式により情報を集め、面会時などに話を聞いている。今後もご家族の協力を得ていく
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ICFの視点でその方の出来ること出来ないことをミーティング等で共有できるよう検討している	○	継続してICFの視点で検討していく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の言動や希望、家族の思い等を取り入れミーティングの場で情報交換を行い計画へとつなげている。	○	6か月ごとのプランの見直しと、日々適切な対応を検討している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	容態に変化が見られた時は家族と連絡を取り、計画見直しを行っている。	○	プランの変更見直しはその都度行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、モニタリング、介護計画を記入している。	○	記録し、業務日誌において引継ぎをして情報を共有している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人が望まれるような事を支援している。	○	
4. 理念を実践するための体制				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通して会議の中で依頼するとすぐに実現できるよう支援していただいている。敬老会に希望者は参加できている。	○	今後も運営推進会議を通して地域の方々にも支援していただけるよう働きかけていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設の通所介護の慰問等に参加している。また必要時はリハビリ等うけられるよう支援をしている。	○	今後通所リハビリ等希望があれば柔軟に対応、支援していきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議において話し合っている。	○	運営推進会議において情報の交換をおこなって行きたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	皮膚科、眼科、心療内科、歯科などそれぞれのかかりつけ医に受診している。	○	必要時は他院の受診支援を行っている。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	外来受診時に相談をしている。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	必要時は併設の病院の看護師の協力も得られている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	入院時は面会に行き、情報を得ている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	面会時には常々容態の変化を伝え相談をし、職員間でも方針を共有している。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	家族、医師と話し合っ、その都度検討している。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	サマリー等において情報交換を行い、引継ぎをしてリロケーションダメージがないよう支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>ほん</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報(ファイル)は、事務所に置き、職員以外の目に触れないようにしている。	○ 気分をそこねる様な言葉遣いをしないように注意していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その都度、本人の希望を確認している。 本人が決めている。	○ 本人の思いを大切にしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて、その都度対応している。 本人の訴えを優先する。	○ 本人の思いを大切にしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの店に行けている。 行きたい時に行ける様支援している。	○ 顔そり・理容・美容室などに希望時は行けるよう支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お粥・マグロなど希望されるものを用意している。 利用者と下ごしらえ・調理をしている。 茶碗・お盆拭きが出来ている。	○ 本人の希望を叶えている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事の形態やその日の気分などで日々対応できている。	○ 一人一人の状況に合わせて対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便の記録。 排便困難時は下剤などを服用。 ファイブミニを飲んでいる方もいる。 トイレ誘導。	○	排便が困難な方には一日1本ファイブミニを飲んでいただいている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入りたい時にいつでも入れるよう支援している。	○	いつでも入浴できるように支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝を促している方もいる。 冬は湯たんぽを入れて温かくしている。	○	冬場は湯たんぽを入れている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩・ドライブ・料理・草取りなどの役割を大切にしている。	○	楽しみを持って役割が果せる様支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払いの出来る人への支援はしている。	○	化粧品・本・お正月商品など、本人の希望に応じ対応している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・ドライブ・会いたい人に会いに行けるよう支援している。	○	花見・買い物・ドライブ・梅ちぎりなど、行ける様支援している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	阿蘇・花火・温泉などに行かれたり。 家族とともに食事に行かれたりしている。	○	結婚式・OB会・お見舞いなど、希望にそって対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時や、家族から荷物や手紙が届いた時は電話をかける支援をしている。	○	自由に電話をかけたり、連絡できる様支援している。本人の思いを大切にしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の面会時は、一緒にゆっくりと過ごせる様セッティングをしている。(部屋・ホールなど好まれる所にセッティングしている)	○	家族と一緒にゆっくりと過ごせる様支援をしている。ゆっくり過ごせる様あたたかく見守っている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員理解している。 身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	夜間危険を伴う時2点柵をする時もある。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開放し、自由に入出りできるようにしている。	○	自由に開放している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	どこで過ごされているか把握しながらケアしている。	○	全員が心がけている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	できるかぎりハイターなどではなくEM菌を使用している。	○	EM菌を使用している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態に応じた支援をしている。 内服薬も毎食事手渡しをしたりして介助している。 タバコを吸われる方もいるので火の後始末にも気をつけている。 (いつもバケツに水を入れ火災に備えている)	○	掃除の後いつもバケツに水を入れ火災に備えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月に一度の勉強会・ミーティングなどで定期的に勉強会を行っている。	○	定期的に行っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防火訓練を行っている。 入居者も一緒に避難訓練に参加していただいている。	○	地域の人々の協力を得られるよう働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や電話等で必要時に説明し、伝えている。 主治医からも説明していただいている。	○	その都度伝えている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に情報を共有し、対応している。 併設の病院と連携をとって必要時は急な往診、入院も受け入れてもらっている。	○	現状のまま病院と連携を図っていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々のケア記録ファイルに個々の薬の内容や用法・容量等を記載している用紙を貼っている。	○	勉強会などで学んでいる。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味の方には、一日1本ファイブミニを飲んでいただいている。 牛乳・ヨーグルト・水分補給・散歩を行っている。	○	食物繊維のある食材を使った料理を工夫している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き(義歯洗浄)を行っている。 個々に応じた支援を行っている。	○	毎食後声をかけ支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事などもチェックしている。 食事以外にも10時・15時や散歩・入浴後に水分補給を行っている。	○	一日をトータルで見ようとしている。 食事が入らない時の対応は個々に応じて行っている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	こまめに手洗いを行っている。 掃除の時もEM菌などを水に入れ、掃除をしている。 病院の研修に参加している。	○	予防接種を受けている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	一日1回は、まな板・ふきん・スポンジなど消毒を行っている。 (ハイターにて)	○	一日1回の消毒を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関を開放している。 玄関前に季節の花を植えている。 バリアフリーになっている。	○	季節の花をいつも植えている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、雛人形・鯉のぼり・風鈴・しめ縄飾りなど、四季折々のものを自然な形で飾っている。	○	季節感を出している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いろんな所にテーブル・椅子などを置いて、自由に過ごせる様工夫している。	○	一人一人の思いを大切に見守っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やタンス・布団・TVなど使い慣れたものを使用されている。	○	本人と話し合いながら居室内の配置を換え、動きやすいスペース作りを支援している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の状況に応じて対応している。	○	利用者の希望に応じて対応している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖・車椅子・老人車など個々に応じた物を使用されている。 建物内はバリアフリーになっている。	○	その人に合った物を使用し、自立した生活をしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの出来る事がしたいことが出来る様な支援を行っている。	○	不安なく出来る様支援している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外に自由に出れるよう開放している。 庭に木や花・野菜なども植えている。 自由に草取りをしたり、収穫したりしている。	○	収穫を楽しめるよう支援している。

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・一人ひとり、本人の思いを叶えられるよう支援することを心掛けている
- ・利用者の方は一人の人として、人生の先輩として尊敬している。その方々が心から笑顔がだせる機会が多くなるよう支援することを大切にしている
- ・人生の最終ステージである利用者の方たちが終の住処として安心して過ごせるよう、職員一同努力している
- ・職員のチームワークがよく、働きやすい職場である

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ゆうきの家
(ユニット名)	第2ゆうきの家
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名市上小田1180
記入者名 (管理者)	前田浩美
記入日	平成 20 年 12 月 25 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族、地域との結びつきを大切に、残存能力を引き出し、本人の意思を尊重しながら、当たり前の暮らしへの支援。認知症という障害がなかったら、どんな暮らしをされていたのかを感じながらこれまでの暮らしの継続ができるよう支援している。	○ 今後、これまでの生活の継続と人間関係の継続と再構築ができるように環境を整え支援していきたい
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	本人の現在の状況、本人の思いは何なのか、どんなことに困っているのか。ミーティング、日々の申し送りを利用して共有する時間をもうけている。	○ 常に振り返ること。何か気になる、何かおかしいと感じた事から、職員、皆で確認しあうこと、そのことを記録に残し、実践していく必要がある
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	生活の状況を面会時に伝えている。運営推進会議では、身体的状況から生活状況まで、ありのままを伝えている。	○ 家族の面会時、運営推進会議時に伝えていきたい。
g			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの近くを散歩中、道端で会う人にあいさつをしたり、前の畑の方から野菜を頂く機会がある。手作りのお饅頭やお茶を差し入れしお互いが気軽に声を掛け合うことができる様に努めている。	○ 立地条件が、隣近所2軒しかなく、近所を散歩されている時等、さりげなくあいさつしながら気軽に、入って来れる雰囲気作り、気をつけていきたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会に招かれる機会があり参加できた。頭をさげ軽いあいさつだけではあったが、楽しい時間を共に過ごすことができた。	○ 区役などに参加させていただき、来てもらうだけでなくの受身ではなく、出向く機会をもうけていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議時、推進委員より希望があり、認知症ミニ勉強会をとりいれ、認知症について学んで頂く機会をもった。	○	運営推進会議をもとに、いろんな意見を聞きそれに答えていけるようにしたい。地域包括センターに協力を得、地域の人に認知症への理解をしていただけるよう計画中
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各自、自己評価を行い勉強会で検討してきた。自分たちの行ってきたケアとホームの役割など再確認できた。	○	自己評価は、職員皆で今後も自分たちの介護を考える機会として活用していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の会議には、ホームの取り組み、生活の状況を伝え、いろんな意見を頂いている。いろんな質問などに、ありのままを伝え意見が言いやすい環境に努めている。	○	意見がいただける環境・働きかけをして、頂いた提案、意見には迅速に対応していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議が終わって、必要時に時間をいただいている	○	地域住民の方々の認知症への理解のためにも市町村と一緒に協力していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を必要とする入居者があり、法人社会福祉士に、助言をうけながら、法人勉強会でも学ぶ機会があった。	○	いろんな研修会に参加したり、事例があったとき、皆で共有していきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会に参加し、虐待がないよう職員一人ひとり注意している	○	そういう事を発見したら、皆で情報を共有していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明とその都度状況がかわっていく中で利用者・家族に理解が得られるような言葉で説明し確認をし、同意を得ている。入居時に、どんな暮らしをしたいか本人・家族の思いを聞くようにしている。	○ 全部の職員が、共有し説明が出来るよう、疑問点等尋ねられた時は答える事ができるようにしたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見は職員間で共有し日々、思いに叶えることが出来るよう検討している。ミーティング時、利用者・家族は自由に参加し、意見を言ってもらおうようにしている。	○ その都度、問題があった時には、そく応じ前向きな姿勢で考えていきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の報告と文章を通じての報告、急を要する報告、状態状況にあわせ対応している。小遣い帳は、必要時、または一年に一回コピーをして渡している。	○ どの方法が一番いいのかを、個人個人の状況から判断し適切に行いたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見は謙虚に受け止め前向きに捉えるようにしている。スタッフ間で情報を共有し、同じ視点で対応するよう心掛けている。意見を言いやすい雰囲気づくりにも心掛けている。	○ 意見等言いやすい雰囲気作りに努めていきたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々の中で、利用者の状況をふまえて、意見や提案を聞き反映できている。法人の業務改善案では、職員のアイデアを重視し実行している。	○ 職員が意見を出しやすいように、日頃木になっていることを言える機会を今後も持っていきたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に応じ、職員確保・勤務調整を行っている。勤務パターンは、その日・その時に応じ、迅速に対応している	○ 今後も、利用者の状況に応じた、柔軟な体制をとっていく予定
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のダメージを考えながら、異動が必要な時は、利用者・職員共の状況を考えながら、異動をしている	○ 今後も最小限、必要な時の異動に努めていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外への研修会、法人内の勉強会への参加ができ、学ぶ事機会がある。日々、学ぶことの大切さを感じている。法人内では年間を通じて計画してある。	○ 継続的な学びを大切にしたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・都市のグループホーム連絡会への参加。県認知症介護実践者研修の実習受入場所であり、いろんな方と話ができる時間がある	○ 実習を受け入れるばかりでなく、出向いていける場を、もうけていきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務希望は、すべて受け入れ、月に1回～2回の有休休暇を利用して、勤務表での無理のない状況がある。ゆっくりした生活。職員一人ひとりが自分の特技を自然と出せる環境である	○ 勤務希望は、希望に叶えられるよう、無理のないようにして働ける場としたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	一人ひとりの職員の存在を認めあい、足りないところは、お互いが支えあえる環境。人事評価で一人ひとりの能力、不足分を見極め一人ひとりががんばっていける。	○ 現場の要望が伝えられるようにしたい
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の言葉・行動から、本人の困っている事、どんな暮らしを望んでいるのかをICFの視点で支援し、本人の思いに近づけるよう、どんな援助を求めているのかを考えながら、支援している。	○ ①本人の思いや意向を聞くこと②本人の言葉・行動からどんな状況かを見抜く力を身につけること。職員と本人の思いのズレが生じないように努めていくようにしたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族がこれまでがんばってこられた介護、本人を思う愛情に、ねぎらいの言葉をかけながら、家族の思いを感じるようにしている。	○ 家族の本人への思いを前情報などで職員の思い込みで崩さないようにしていくことが必要。要は本人にとって、家族は大切な人であることを意識して関わりをもっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況において、早急の必要性があれば、他のグループホームへの紹介を、しグループホーム間のつなぎをとっている。または、法人のサービス利用への連携に努めている。	○	今後も、他事業所との情報交換をしあいながら、その時の必要な要望に答えていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面会に行き、今のホームの雰囲気にあうか、愛称など検討をし、利用していただいている。	○	試し期間をもうけたり、本人・家族の納得のもとでサービスを開始していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自分の感情を言いだせる環境・雰囲気を大切にしている。「ありがとう」の感謝の言葉を伝えながら、役割への達成感を感じることでできるよう出番作りを心がけ、一緒にすることで生活の知恵を学んでいる。	○	介護するというだけでなく“共に生活する”という視点を大切にしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の家と考えると、家族との関係は断ち切れない。一緒に、支援する機会をもうけている。(いっしょに外出等)出来ない方は、面会時、生活の状況を伝え情報を共有するようにしている。	○	家族と一緒に支えるという視点を大切にしていきたい。今後、そのような利用者が増えるように支えていきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員が先々にでしゃばらないように、自然な中でいい時間を過ごせるよう環境を整えている。	○	家族との関係が、たち切れないように、気持ちのいい時間を築いていただけるようにしたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中で大切な人の名前・場所を出したりしている。必要時には、その場所に訪れたりし、関係が途切れないようにしている。	○	大切にしてきたことは、これからも心に残っていけるように、途切れないようにしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	互いの相性を見ながら、どうしても関係・気が合わない人とは、距離をとったり、テーブルを別にしたりして配慮している。利用者同士の声かけがあったり、他者にお世話をされる場面時には感謝の言葉と本人も喜ばれていることを伝えている。	○	共に支え合える環境に努めていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状を出したり、病院に入院された方は、お見舞いに行っている	○	出逢えたことに感謝し、よりよい関係を築いていきたい
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「どんな思いがあるのか？」生活する上で「どんな事に困っているのか？」本人の言葉・行動から、ここでどんな暮らしをしたいのかを把握し本人の望まれる暮らしへ援助している	○	今後も選択肢のある声かけなどで、本人の思い・意思を確認しながら行う
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、センター方式に家族に協力を得ながら記載し、情報を共有しているが、なかなか情報として伝わらない時もある。	○	入居当初だけでなく経過の中でも、情報を共有していきたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活状況など、毎日記録し、情報を共有している。本人の生活パターンを把握することで、今どんな状況にあるのかを感じれるようにしている。	○	一人ひとりの過ごしかたから、本人の状況を見抜けるように努めていきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング時、全職員が参加し本人の困った事、職員が気になることを事実を基に、本人がどうしたいのか、どういう思いがあるのか、どういう支援があるのかを導いている。本人・家族の参加もある。	○	全職員が介護計画を作る事ができるよう努めていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアが先となりがちである。分析したうえでの本人に即した計画の作成が必要と思う	○	状況に応じた見直しができるよう努力していきたい



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉・行動を個別記録に記録しているが、職員の気づいたこと、その事で、どのような援助をしたかという詳しい記録はできていない。気づきがあっても、いいケアをしても文で残らないとプランに繋げることもできないと思う。	○	自分の気づきから、ケアに繋がったことを文で書けるようにしていきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自由な暮らしができるよう、外出・面会等の決められた時間はなく、本人の望み・したいことへの支援。“今どうしたいか”の、今に叶えられるようにしている。「家族を迎えに行きたい」と言った思いには、家族の協力を得て、一緒に迎えに行っている。		今後も、多様な柔軟的な支援をしていきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議時の推進委員の方々、ご近所、法人の職員、近所の理美容院の方の協力を得ることができる	○	地域に出向くことで、解決できればと思う
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望にて、地域の老人会に参加したり、法人の通所の催しもの、保育所の行事に参加したり、リハビリを受けるため、他の職種の助言をいただきながら連携を図っている。	○	いろんな職種との連携をとりながら、いろんな視点から見つめていける柔軟的な対応を考えていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議時の推進委員として、アドバイスをいただいている。	○	認知症についての勉強会(地域の方を対象とする)を協働で計画している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の思いや状況を把握した上で、医療に繋がっていきけるようにつとめてきたが、生活や思いを重視するがゆえに、医療が後になってしまうことも過去にはみられた。生活の状況を伝えながら定期受診はしている。	○	より質のよい生活をするには、健康であるということと切り離せない。医療との連携を図りながら、適確な情報を伝え適切な医療を受けられるよう考えていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>生活の場として、生活そのものを中心に見つめていたが、医療の場で生活を捉えて行くことが、どんな事なのかと考えるようになった。本人にとって一番の方法を考えながら、医療と連携できるようにしていきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>法人の病院と連携を図りながら、健康管理や適切な医療活用をしていきたい</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>入院ということでの本人の不安を感じ、少しでも同じ環境が作れるよう病院との情報交換は大切にしていきたい</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>日頃からの本人・家族の言葉をもとに、状況にあった方法を共有していきたい</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>「最後まで、このグループホームで過ごさせて欲しい」と望まれる方にとって、症状の変化の中で、本人にとって何が一番のいい方法なのかを常に検討していきたい。どういった支援ができるという医療との方針を明らかにすることの必要性を感じる。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>情報交換を行い、本人にとっての一番の方法を考えていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自己決定できるように選択肢のある声掛けと、プライドを傷つけないように、本人にとって響きのよい言葉を使うようにしている。	○ 個人情報の取り扱いとなると、申し送りなど利用者の前で行ってしまう場面もあり、気をつけていきたい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	選択肢のある声掛けと、職員の先手先手の働きかけでなく、気持ちが向くまで待つことを大切にしている。	○ 本人の気持ちを確認すること。自分で決める事ができるよう本人にわかるような語りかけを大切にしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりごとを作らず、一人ひとりの状況から、ものごとを見つめるようにしている。本人の生活リズム・ペースを大切にしながらも「どうありたいのか?」「どうしたいのか?」を感じ支援している。	○ 職員の思い込みでの生活リズムを作ってしまう可能性もある。日々振り返りながら、検討していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分で服を選んできたり、介助が必要な方にも、選んでいただいている。行きたいときに行きつけの理容・美容店にいけるようにしている。ボランティアの美容師の方の協力もある	○ 介助者の好みもいりがちだが、衣類を選ぶ時に上下の洋服のコーディネイトも必要になると思う。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に相談しながら行っている。一品は得意料理を作っていただき、職員は手伝うようにしている。地の物・季節の野菜を多く取り入れた献立が並ぶ。好き嫌いを把握して、嫌いなものは他のおかずを多くし対応している。片付けも、一緒にを基本としている。主として作る人の好みに片寄ってしまう傾向にある。	○ 一人ひとりにあった、食の楽しみ方を感じ、食の片寄りがないように気をつけていきたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の飲みたい時に飲めるよう、自室には冷蔵庫を用意している人もいる。10時・15時とティタイムがあり、自分の好みのもので飲めるようにしている。食欲がない時は、本人の好きなもの・食べれるものを準備したり、一人ひとりの状況から、食べたい物を自由に食べれる雰囲気大切にしている。	○ 自由にできる環境を築いていけるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿とりパットをしていた方が安心と言われる方もいるが、言葉や動きで、一人ひとりの排泄サインを見逃さないように心掛けている。本人の排泄パターンを知る事で、誘導を行いトイレで排泄できている方もある。	○	尿とりパットを使用する方が増えている。尿とりパットに頼らず、不快感のない一日を送っていただく上でも、トイレでの排泄ができるような状況の中で察知していきたい
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい時に入浴できるように、毎日が入浴日で時間帯も夜遅くにでも入ることが出来るようにしている。一人では寂しいと言われる方は、一緒に入浴することもある。	○	清潔援助としてだけ見つめるのではなく、一人ひとりの入浴スタイルを大切に気持ちよく入浴できるよう支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ソファで休まれたり、歌を聴きながら入眠されたり、眠れない方は、一緒にコタツで過ごしたりと消灯時間は決まってない。一人ひとりの状態に応じた支援をしている。	○	一人ひとりに応じた支援で安心した眠りにつかれるようにしていきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活が継続できるようまた、本人のやりたいことが叶えられるよう支援している。食事を用意する人・花壇の手入れやブロック塀の職人として、仕事をする方がいる。ドライブに行ったり、買い物に行ったりする方もいる。	○	一人ひとりのニーズから、楽しみの時間幸せな時間を築いていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方がいる。自分で買いたいものを買ってレジでお金をはらったり、曾孫の面会にお小遣いとして渡すことを楽しみにされている。お金の心配をされる方が多く、自己管理が困難な方は、預かり金があり、いつでも対応できるようにしている。また、財布にお金を入れ、いつも持っていたりしている方もいる。	○	「お金がないことで不安がある」ということを受け止め、安心できるよう一人ひとりの対応を考えていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や奥さんを向かえに行かれる方もいる。天気の良い日は、散歩したり、「～したい」「～に行きたい」といった今に即、答えることが出来るように支援している。	○	今の気持ちに即、応じて行けるようにしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お弁当を持って、季節の花を見に行ったり、家族とともにお墓参りに行かれたり、温泉にいかれたりしている	○	目で見て、風に触れて、季節を感じたり、自然の中で外出できるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方がある。「電話をかけて欲しい」と言われるときに対応をしている。	○	家族や大切な人との絆がより深めていけるよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時、ゆっくり過ごせるような環境とお茶のおもてなしを行って、お互いが気持ちいい時間となれるように支援している。	○	いつでも、自由に訪問できる環境を大切にしたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。	○	本人・家族の辛さを十分に受け止め、気づかないうちに拘束につがらないようにしていきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が日中鍵をかけることはない。自由に出入りできるようにしている。利用者の希望で自室に鍵をかける方はいる。	○	利用者の希望で自室に掛ける鍵は、一軒の家と考えるなら、当たり前のことと思うが、鍵がかかっているということで、孤立されないよう気を配りながら支援していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自由な暮らしの中に、安全面の配慮が必要になると思う	○	本人にとっての一番の方法を考えていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険を防ぐ取り組みとまではいかないが、包丁・針など定置に置くようにしている。	○	状況のなかで、検討していく必要があると思う。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬防止のため、与薬前には必ず名前の確認と確実に服用できたことを確認している。	○	よきせぬ事故にならないよう、一人ひとりの状況を把握していきたい。定期的に、知識を学ぶ機会をもうけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に2回法人の防火訓練に参加している。全職員ではないが消防署の主催による研修に参加している。	○	定期的に知識を学び訓練を受ける機会をもうけていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人に対する地域の支援体制の中に取り込まれている。年2回避難訓練をし、避難経路の確認・緊急連絡時の対応をしている。	○	いざとなったとき、あわてることがないように、定期的に避難方法を検討し、地域の方と協力が得られるような関係を築いていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	束縛のない自由な暮らしに重点をおき、おこりうる可能性への対応の甘さがあるかもしれない。家族には、生活の様子を伝えながら、一緒に考えさせてもらっている。	○	生活の状況から、その都度考えていきたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	生活の中で、いつもと違うと感じることを早期発見につなげている。一人ひとりの対応を大切に、法人の看護師への協力を得ながら、医療との連携ができるようにしている。家族には電話連絡をしている。	○	自分の症状を伝えきれず、病状の悪化を招くことがある。生活全般から捉え、体調の変化を察知でき早期発見に努め、必要時は医療につなげていきたい
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬処方箋をファイルに保存し、何の薬か、どんな副作用があるのかは確認できるようにしている。新しい薬が処方されたときは、申し送り時に情報を共有している。	○	確実な服薬支援と症状の変化を早期に発見に努めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日黄な粉牛乳やヨーグルトを促したり、食物繊維の多い食材を調理する工夫をしている。	○	身体を動かす機会が少ないので、食と運動と両方の面から見直していきたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	部屋近くの洗面所に一人ひとりの歯ブラシとコップを用意している。毎食後の歯磨きを基本にしているが、昼食後ができていない時がある。夜寝る前は、歯磨き後、義歯は義歯入れに入れ、管理している。義歯装着を嫌がられる方は、食後お茶を飲めるよう促している。	○	毎食後、行えるように一人ひとりに合わせた働きかけを行っていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節のいろんな素材の味を大切に、食べれる量や食べれない時には、食べれる物への検討をし一日をトータル的に見つめている。お茶を好まれない方は、甘い飲み物やポカリスエットで水分が摂れるように工夫している。	○	食事は利用者と職員が一緒につくり盛り付けをされるため、量が多くなったり栄養バランスが悪い時もある。一日をトータルに考え、本人の食べれる量・形態を状況の中で検討し、少しでも経口的に摂取できるようにしていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人の感染防止マニュアルに従い対応している。タオルの共有はせず、手拭は各所にペーパータオルを設置している。予防接種も全員が受けれるようにしている。	○	手洗い・うがいをしながら発生の予防と感染を防ぐようにしたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器洗浄機を使用している。夜勤の職員による、冷蔵庫内の食品賞味期間のチェックを行い賞味期間の近いものは、決まったカゴにいれ、早く食べきれるように工夫している。夜間の調理用具のハイター消毒をおこなっている。	○	衛生管理の必要性を意識付けし安心して提供できるようにしたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は施錠せず、誰でも自由に出入りできる。建物周りには、季節の花を植えたり、玄関には小物や花を置いたり、家族が月別に写真を飾られている。	○	立ち止まって会話をかわせる環境づくりから行っていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけや、季節の花や野菜を置き、季節を感じれるとともに生活感を感じられるように努めている。テレビのつけっぱなしや大きな音などには気を配っている	○	その人以外のすべてを環境と捉え、本人が心地よく暮らしていけるための環境作りをこころがけていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いろんな場所に、ソファやテーブルを置いて、ひなたぼっこが好きな方・歌をき聴きながら外を眺められる方など、思い思いの場所で一人ひとりが過ごしながらも、ひと気を感じれる環境につとめている。	○	自分で移動できない方もあるため、職員の安心のための一人ひとりの居場所づくりではなく、本人の思いを確認したうえで場所をきづいていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望や必要に応じ、使いなれた家具やテレビ・冷蔵庫等を自由に持ちこんで頂いている。本人の状況により、遮光カーテンを使用したり、入り口に鍵を必要とされる方には、鍵の設置したり、安心して、居心地のよい環境で暮らせるよう支援している。	○	自分の家と同様に、安心して居心地のよい場として考えていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除時、窓を開けての換気をしている。各自居室には、エアコンが設置しており、個人の状況で自由に調整できるようになっている。タイマーを使用し室温の調整を必要とする場合もある。	○	職員の感覚での温度調整でなく、一人ひとりへ配慮した利用者の状況に応じて行っていきたい。
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの建物で、廊下、風呂場、トイレなど手すりを設置している。浴槽には、安全に入浴できるように補助具・スベリ止めを設置している。	○	全部を介助するのではなく、出来る力を自らがだせるような支援をしながらイスやテーブルなどその人にあったものを選んでいきたい
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各自の居室には、表札を置き、表札を読み自室に入るられる方がいる。トイレには、見える所に名前を表示している。言葉で伝えられない方には、動きなどで本人の状態を察知している。落語・歌が好きな方には、ゆっくり聴けるように、環境を作り支援している。	○	出来る事・出来ない事を見極め出来る事への働きかけとできることをひきだせるよう支援できない事は本人のプライドをきづつけないよう後からの支援をしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	目室にあるベランダに洗濯竿を設置し、洗濯物や布団を干す方がある。花壇を作り、花や野菜を植え、手入れを役割とする方、見て楽しめる方がいる。フェンスを利用して作ったささげは、収穫する人、皮をむき、豆を取る人、毎日ひなたに干しにいく人、料理する人とそれぞれ得意分野で楽しまれた。	○	いろんなアイデアを出し合って、その人が楽しめる空間を考えていきたい。



## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・一人ひとりを大切に、その人の思いが叶えられるよう支援している
- ・「今」を大切にその思い、その瞬間を大切に支援している
- ・本人のこれまでの生活、価値感を受け止め、家族と一緒に支えること、自己決定できるよう、その人中心の生活に繋がることを大切にしている
- ・決まり事がない自由な生活、気ままな生活ができるようお手伝いしている
- ・本人のしたいこと、出来る力、したくなるような環境づくりに努めている